

# 「みんな竹矢の子」プロジェクト

島根県松江市

活動名

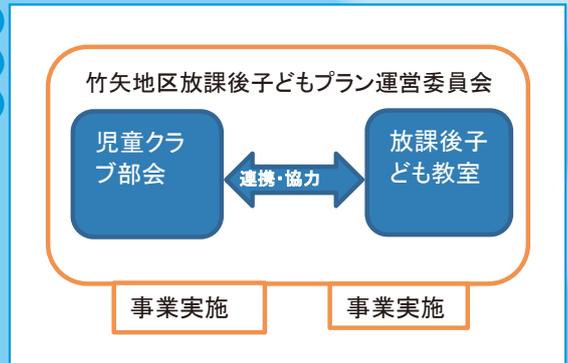
ちくや子ども広場

関係する学校名

竹矢小学校

| 基本データ       | 学校支援活動      | 総括コーディネーター数              | 地域コーディネーター数 | ボランティア登録数 | 学習支援      | 開始年度         | 国庫補助  | ICT活用      | 企業・NPOとの連携 |
|-------------|-------------|--------------------------|-------------|-----------|-----------|--------------|-------|------------|------------|
|             | 地域未来塾       | 総括コーディネーター数              | 地域コーディネーター数 | ボランティア登録数 | 子供の平均参加人数 | 開始年度         | 国庫補助  | ICT活用      | 企業・NPOとの連携 |
|             | 放課後子供教室     | 総括コーディネーター数              | 地域コーディネーター数 | 子供の平均参加人数 | 年間開催日数    | 開始年度         | 国庫補助  | ICT活用      | 企業・NPOとの連携 |
|             |             | 0人                       | 1人          | 42人       | 78日       | 19年度         | 有     | 無          | 無          |
|             |             | 実施場所                     |             |           | 学習支援      | 放課後児童クラブとの連携 |       |            |            |
|             |             | 松江立竹矢小学校(教室・体育館・校庭)・専用施設 |             |           | 無         | 一体型          |       |            |            |
| 土曜日の教育活動    | 総括コーディネーター数 | 地域コーディネーター数              | 子供の平均参加人数   | 学習支援      | 開始年度      | 国庫補助         | ICT活用 | 企業・NPOとの連携 |            |
| コミュニティ・スクール | 指定日         |                          |             |           |           | 委員数          | 児童生徒数 | 学級数        |            |

体制図



**活動の概要**  
 ちくや子ども広場の開設に当たり、「ちくや子ども広場検討委員会」を設け、既にあった「放課後児童クラブの運営委員会」に新設する子ども広場の運営委員会の機能を加えた、一つの組織「竹矢地区放課後子どもプラン運営委員会」(事務局は公民館)を設立し、平成19年度から活動を始めた。開設に当たり、保護者の意向を知るためのアンケート調査や、PTA地区懇談会にて松江市教育委員会及び公民館長から保護者へ説明をした。本格実施前に、夏休み版の子ども広場を開き、子ども広場への理解を深めてもらうことに併せてスタッフの募集を行った。  
**経緯**  
 「みんな竹矢の子」という考えのもと、「子ども広場」と「児童クラブ」に所属する児童が共に過ごせるよう、両スタッフが定期的に情報交換しながら支援している。(※子ども広場：松江市における放課後子供教室の名称)

## ● 活動の特徴・工夫

### 【特徴的な活動内容】

- 子ども広場の安全管理員が児童クラブの指導員と連絡を密にしながら児童の見守りをしている。
- ・子ども広場、児童クラブのどちらの子供も同じ場所で、同じ指導と見守るスタイルを確立している。
- ・学校と連携・協力のもと、施設使用については柔軟に対応している。(雨天時には特別教室を借りる等)
- ・遊び場所、遊びプログラム、教材の共有や見守りを子ども広場のスタッフと児童クラブの指導員とが連携・協働している。
- 公民館や地域の農業従事者ボランティア団体と連携・協働した農業体験や近隣のお寺の住職に怪談を話してもらうなど地域の資源を活かしたプログラムを実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 児童クラブと子ども広場の運営委員会を1つの組織とし、事務局を公民館に置いている。
- 子ども広場のスタッフと児童クラブの指導員との情報交換会を定期的に開催することにより、課題や問題を共有している。
- 子ども広場のコーディネーターが児童クラブ、学校、保護者、地域との連絡調整や情報発信をきめ細やかにっており、風通しが良い。

## ● 事業を実施しての効果・成果

- 一体型で実施する良さ
  - ・子ども広場と児童クラブの児童が一緒になって遊ぶ機会を創出できた。
  - ・子ども広場のスタッフと児童クラブの指導員との情報交換会を定期的に開催することで、課題把握や問題点の共有が可能となり、児童に対する理解が深まるとともに、様々な対応が迅速かつ適切に行われるようになった。
- 地域とのつながり
  - ・児童やその親が一緒になって公民館主催事業(プール遊び、ペットボトルロケット大会出場、かるたとり大会、七夕会、クリスマス会)に参加するようになった。
  - ・お寺や神社のお話会や清掃活動などの地域活動に子供たちが参加するようになった。



花いっぱい大作戦



たけおっつあんに集合